

どの子ども運動の楽しみを味わい、支え 合いながら伸びる体育学習をめざして

大分県豊後大野市立三重東小学校

全校児童数	218名(男子103人 女子115人)		
全クラス数	12	教職員数	31人
体育専科教員訪問学校数			9校
訪問校	市内小学校(9校)		
体育専科教員名		秋篠 大和	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆体力・運動能力、運動量の差

- ・学年間、男女間での体力・運動能力の差 (DE層16%)
- ・今年度の体力調査から、全体的な傾向として瞬発力、柔軟性が身に付いている。筋力(握力)が全体的に弱い傾向がみられる。

◆放課後や休日の運動習慣

- ・社会体育で運動をしている児童としていない児童の運動実施時間の2極化

◆運動意欲

- ・1学期末アンケート「体を動かすことが好き」と回答する児童86.1%。学年間で差がある。

2 取組の計画

- ①体育授業の充実
 - ・学習カードやICT資料、掲示物の作成・掲示
 - ・職員向けの市内体育通信の発行
 - ・異学年交流体育の実施・同一単元期間の設定
- ②体育備品、環境の整備
- ③体育的行事の計画・実行
- ④訪問校での授業参観及び事後の授業改善アドバイス

Do：実践内容

1 体育授業の充実

(1) 学習カードやICT資料、掲示物の作成・掲示

- ① 単元ごとに絵入りのポイントを示した掲示物を体育館に掲示し、どの学年も活用できるようにした。
- ② 技の動画や動きのポイント、振り返りアンケートなどの資料をロイロノートで作成し活用した。

(2) 職員向けの市内体育通信の発行

指導のポイントや指導の工夫等を職員に紹介し、授業に役立ててもらった。

(3) 異学年交流体育の実施・同一単元期間の設定

各単元に一時間程度、1年生と6年生などの異学年交流体育を実施した。また、跳び箱などの単元では、準備片付け短縮のために、取り組み期間を設定して実施した。

2 体育備品、環境の整備

- (1) ラインカー用コース印付け、グラウンドマーカー、プール清掃用ヘラ、ミニハードル、スイムヘルパーの購入

- (2) 手作りボール、フラフープ掛け設置、体育倉庫の整備、鉄棒補助具と技の掲示物設置、筋肉もりもりコーナー(握力)の設置

3 訪問校での授業参観及び事後の授業改善アドバイス

市内小学校9校に年2回ずつ訪問し、授業参観後に授業改善アドバイスを「体育授業のまとめ」として文書で行なった。

●工夫したこと(&苦労した点)

- ① 鉄棒運動単元の期間中は補助具の設置とマットの設置を行なった。
- ② ICTの資料の作成や一人一台のタブレットを記録や振り返りで活用した。
- ③ 異学年交流学習を適宜取り入れ、子どもどうしの教え合い学び合いの多い体育学習に努めた。
- ④ 運動量の確保と発達段階を踏まえた指導内容、苦しい児童への配慮に視点を置き、教材教具や場の工夫を行なった。
- ⑤ 市内の学校への体育専科派遣では、授業内容のまとめ(改善点やアドバイス、代案等)をなるべくその日のうちにメールで送り、授業改善に役立ててもらった。

Check：取組の成果

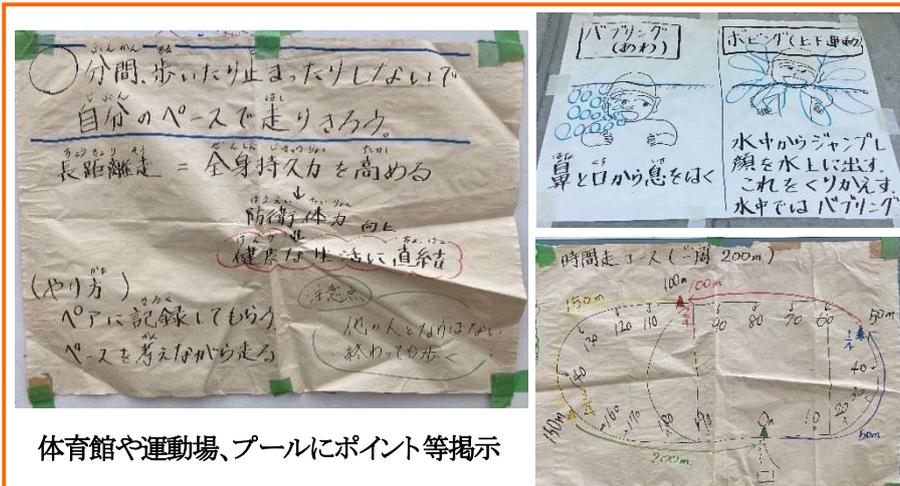
- ① 教材教具・場の工夫、補助運動(掲示)の充実により運動量を増やすことができた。
- ② 学習カードやIpadを有効に活用し、学習のめあてや技のポイントを意識した授業になった。
- ③ 体育備品・環境の整備を行ったことで、体育授業での運動量の確保はもとより、休み時間等に進んで運動をする児童が増えた。
- ④ 異学年交流体育を適宜取り入れたことで、年長者にとっては思考判断表現をフル活用する時間が増えたことで、より深い学びにつながった。また、年少者にとっては、基礎技能の向上に大きな効果があった。
- ⑤ 2学期末アンケート「体を動かすことが好き」と回答する児童94.6%に増加。(8.6%増)

Action：今後の課題

- ① 様々な単元でのICT活用
- ② 各単元の時間数の確保
- ③ 5・6年の教科担任制における担任との共通理解

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

- ・運動習慣が身につく。
- ・運動好きな児童や、外で遊ぶ児童の増加につながる。
- ・学び合いや教え合いが増え、良好な集団作りにつながる。



体育館や運動場、プールにポイント等掲示



運動好きな児童が増えるような体育授業



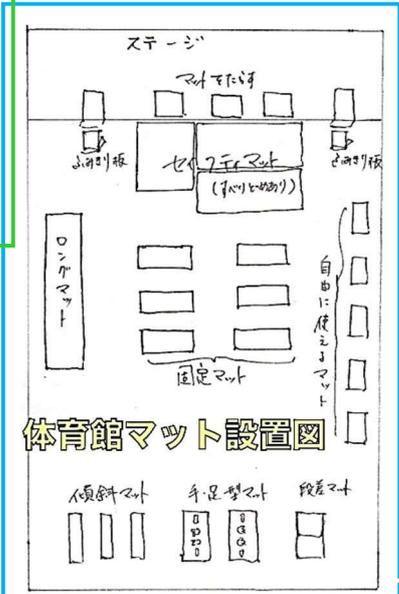
職員向け市内体育通信



異学年交流体育



運動量確保のための場の工夫



マット運動全校統一設置図



様々な単元でのICT活用



運動の日常化(体力もりもりコーナーの設置・鉄棒運動期間の設定)